

【佳作】「給食はたくさんの方がかわっている」

祥南小学校 稲垣 健太

ぼくは、一学期に給食係をしています。午前中の授業が終わるとすぐに、学級のみんなの机の上と配ぜん台を水ぶきします。そのために、バケツに水をくんでおくのですが、ある日誰かがバケツに足をひっかけてしまい、水がこぼれてしまいました。みんなでこぼれた場所を一生けん命ふきました。係として、水がこぼれると大変なので、これからはなるべく人が通らないような場所にバケツを置こうと思いました。そして、たくさんの方が手伝ってくれたことがすごくうれしかったです。

ぼくは、友だちと楽しく会話をしながら食べる給食が好きです。でも、ぼくには少し量が多いです。牛乳が少し苦手なので、量は半分ぐらいがうれしいです。好き嫌いも多い方なので、嫌いな食べ物が給食に入っていると少しがっかりします。しかし、がんばって残さず食べるようにしています。

こんだての中でぼくの大好きな冷凍みかんが出ると、すごくうれしくなります。このみかんはいつとれたか、どこでとれたかなど、食べていると知りたくもなります。そこで、最近「地産地消」という言葉をよく耳にします。地産地消とは地域で生産された食材を、その地域で消費して

いくことです。そのよさは、新鮮な食材が手軽に手に入ることや輸送距離が短くなるので環境にやさしいこと、また農家からものを購入すれば、地域が活性化され、地元が元気になっていくことです。また、旬のものが分かりやすく、生産者が地元の方なので、顔が見えてとても安心です。今日の食材は、愛知県産かな、このみかんはがまごおり産かな、と思うようになりました。これからも、地元のものをごんごん食べて行きたいと思います。

給食のこんだてを見ていて感心することがあります。それは、毎日メニューが違うということです。栄養士さんは、本当に大変な仕事だと思います。ぼくたちの体の成長に必要な栄養のことを考えてくれています。また、実際に給食を作ってくださいている方は、ゴミなどの異物が入っていないかをチェックしたり、暑い日も寒い日も変わらず一生けん命作ってくれ、頭が下がります。ぼくには、とうていできないなと思います。また、給食をトラックで学校に届けてくださる方や、学校で配ぜんワゴンにのせて、全校分を準備してくださる人など、たくさんの方が見えない所でかわってくくださっていることに、とても感謝しています。

一食にかかわっているたくさんの人たち。いろいろな人の思いが込められている給食をこれからは大事にしていきたいと思います。好き嫌いせずに、絶対残さないようにしていこうと思います。